

小笠原諸島

Ogasawara Islands

小笠原諸島は東京から南に約 1,000km 離れた位置にあり、「ボニンブルー」* とよばれる紺碧の海と切り立った断崖に囲まれた大小 30 ほどの島々からなります。世界遺産の区域となっているのは、聳島列島、父島列島、母島列島、北硫黄島、南硫黄島、西之島で、総面積は約 7,900ha です。有人島の父島、母島では、集落を除いた区域と周辺の海域の一部が世界遺産の区域となっています。

*小笠原諸島には 1830 年まで定住者はおらず、「無人島（ボニン・アイランド）」と呼ばれていました。



ボニナイト

海洋プレート沈み込みが始まって間もない時期にのみ発生する特殊な岩石。小笠原諸島の「ボニンアイランド」から命名され、世界で最も大規模に露出。



貨幣石

単細胞生物で大型の底生有孔虫の化石。コインに似た形状から命名。



オガサワラオコウモリ

オコウモリ科に属する小笠原諸島唯一の固有哺乳類。父島、母島、火山列島に生息が確認される。国の天然記念物。
*絶滅危惧ⅠB類 (EN)



ワダンノキ

母島列島の固有種で、樹高 4 ~ 5m にもなるキク科の植物。種分化の過程で草本が木本に進化した植物と考えられている。
*絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



陸産貝類 (カタツムリの仲間)

約 100 種の在来種のうち、90% 以上が固有種で、固有種率が極めて高く、また、現在も新種の発見が続いている。これらの点が、小笠原諸島が世界遺産として認められる一つの鍵となった。



ホエールウオッチング

近海にはイルカやクジラが 23 種以上確認されている。サトウクジラは冬から春にかけて、イルカ類やマッコウクジラは年間を通して観察することができる。



メグロ

母島とその属島である向島、妹島の 3 島にのみ生息する小笠原諸島の固有の陸鳥。競争者や捕食者が少ないため森林内の様々な場所を利用している。
*絶滅危惧ⅠB類 (EN)

世界自然遺産の登録区域



母島列島

北之島



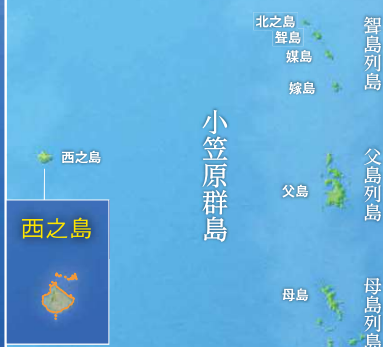
嫁島

聳島 (ケーター島)



媒島

聳島列島



小笠原群島

西之島

西之島

<小笠原諸島> (小笠原村)



北硫黄島

南硫黄島



外来種侵入防止柵

母島の新タロヶ丘では、オガサワラシジミなどの希少な昆虫類を捕食するグリーンアノールの侵入防止柵を設置するとともに、柵内で粘着トラップを使った排除を進めている。カツオドリなどの海鳥の繁殖地となっている母島の南崎では、ノネコ侵入防止柵を設置し、海鳥の繁殖地へのノネコの侵入を防いでいる。



姪島



湿性高木林

小笠原が無人島であった時代には、広範囲に分布していたと考えられるが、開拓により減少し、母島など一部地域の遼闊な環境下に見られるのみとなった。樹高 20m に達する背の高い森林が見られ、林冠層は「こぶのき」として親しまれているシマホルトノキ、アカテツなどによって構成されている。材として伐採され、今では希少な種となったオガサワラグマも見られる。



小笠原ビジターセンター

小笠原の自然を中心に、歴史や文化を紹介した施設。捕鯨基地や占領地などとして特異な道歩んだ歴史や、小笠原にしかない固有種などの珍しい動植物に関する展示や解説が行われている。1988 年東京都設置。



乾性低木林

父島の中央山東平や兄島などを中心に、背の低い森林が広がる。乾燥した気候に合わせて、小さく厚く葉の形を変えたり、海沿いの強風を避けるため、背が低くなるなどの進化をした固有の植物が生育する。



長崎展望台

「ボニンブルー」と呼ばれる紺碧の海が広がる兄島瀬戸や、兄島などを見渡すことができる。



父島列島

父島



沈水カルスト (南島)

南島一帯や母島の石門一帯では、石灰岩が侵食や風化を受けてできた「カルスト地形」が見られる。南島周辺はカルスト地形が海中に沈降した沈水カルスト地形が見られる国内でも珍しい場所。



アカガシラカラスバト

小笠原諸島の森林内に生息する固有亜種。野生化したノネコに捕食されるなどして、その数が減少したが、近年、ノネコ対策等の保全活動により、個体数が回復している。国の天然記念物。
*絶滅危惧ⅠA類 (CR)



小笠原世界遺産センター

展示を通じて小笠原諸島の世界遺産の価値や取組を紹介するとともに、希少な陸産貝類やオガサワラハンミョウの生息域外保全を実施しており、小笠原諸島の保全管理の拠点となっている。2017 年環境省設置。
*表紙紙参照